



門川小
HPへ



「QRコード」は、株式会社デンソーウェブの登録商標です。

校長室通信

～ ハートフル門小 ～



令和7年度 第10号 (令和8年2月13日発行)

R7教育目標：自ら学び 心豊かに たくましく生きる 子どもの育成 ⇒ 「知恵いっぱい・心いっぱい・汗いっぱい」

一日の計は朝にあり！

～ 時々、後ろ姿を見送ってあげてください ～

毎朝、7時30分～55分くらいの時間帯に正門付近に立って子ども達を迎えています。毎朝同じ子たちに、同じような声かけを諦めずに続けています。子ども達からみればしつこいかもしれませんが、朝の忙しい家庭（保護者）に代わって声かけしながら、子ども達との関係づくりをしているつもりです。



- ◆帽子をかぶらずに来る子
- ◆ポケットに両手をつこんで来る子
- ◆長い髪を結ばずに来る子
- ◆かかとを踏みつぶして来る子
- ◆シャツを出して来る子（夏場）
- ◆パンをかじりながら来る子
- ◆ランドセルを片側だけでからって来る子
- ◆体育ズボンで来る子
- ◆スカートが極端に短い子 … 等々

私の姿を見て、慌てて帽子を頭にのせる子や、ポケットから手を出す子たちも多いですが、「それでも合格」、「元気に登校できていることが何より」と思いながら子ども達を迎えているところです。ご家庭でも、時間に余裕があるときには、家から出て行くお子さんの後ろ姿をしばらく見守ってあげてください。一日の善し悪しは、朝のスタートで決まるものです。⇒ “一日の計は朝にあり、一年の計は元旦にあり” です！

生きていく上で最も大切な言葉！

～ 新入学児童保護者説明会① ～

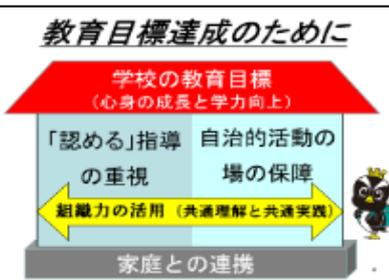
1月23日は、4月に入学してくる新1年生（今のところ56名の予定）の保護者説明会を行いました。私も話をする時間をもらったので、「学校の経営方針」や「入学までに頑張ってもらいたいこと」などの話をさせていただきました。その中でも、特に保護者の方々に伝えたかったことは、『入学前までに“ありがとう”と“ごめんなさい”が素直に言えるように！』ということでした。



“ありがとう” “ごめんなさい” という言葉は、学校生活では欠かせない言葉であり、社会人になっても、生きていく上で最も大切な言葉だと思います。しかし、本校の実態を見てみると、なかなかこの言葉が出てこないというのが正直なところです。特に、児童がトラブルを起こしたときに教師が指導すると、「何で俺・私だけ（注意するのか）」「うるせえ、黙れ！」等の反応が返ってくることもしばしばで、「怒ってその場を切り抜ける」という誤学習をしてしまっている子たちがいるのも事実です。そういう子達は、自分のことを俯瞰してみる力（メタ認知能力）が育ちにくく、同じ失敗を繰り返してしまいがちです。また、相手に対してもいい印象を与えることができません。そのためにも、幼児期にしっかりと感謝や謝罪の言葉が言えるようにしておくことは、とても大切なことだと思います。「子どもに言わせる」のではなく、「親が言っている姿を見せる」ことがとても重要だということを保護者の皆様にお伝えしました。⇒ “子は親の鏡、親は子の鑑” です！

“褒めること”以上に“認めること”

～ 新入学児童保護者説明会② ～



新入学児童保護者説明会では、『“認める指導”を大切にされた学校経営』についても少し話をさせていただきました。“褒める”と“認める”…とても似ている言葉ですが、本校では“認める指導”の方を大切にしています。

“褒める”とは、大人（親や教師）側の基準や価値観で褒めたり、周りと比較して上手にできたときなどに褒めたりすることが多いかと思います。それに対して、“認める”とは、子ども側の基準（思い）で認めてあげること、個人内の努力や頑張りを見逃さずに認めることだと思っています。

例えば、3学期に入ってどの学年も、体育では縄跳び運動に取り組んでいますが、色々な技を長く上手に跳べる子たちは褒められることが多く、いつも同じ子たちばかりが褒められがちです。しかし、縄跳びが苦手な子たちの中にも、何度も何度も諦めずに練習して二重跳びが1回だけできるようになったり、昨日よりも長い時間跳び続けることができるようになったりする子たちもたくさんいます。そういう子たちを見逃さずに、「昨日よりも10秒も長く跳べるようになったね…」と、できるだけ具体的に認めてあげることが大切です。子ども達の中には、「すごいね！」と褒められてもうれしくない。私が努力したことをちゃんと認めてもらいたいんだ！」と思っている子たちは案外多いのかもしれない。